

教科等	授業改善の視点（担当）	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	<p>①言語活動の充実、「書く」活動の充実【学校経営方針】</p> <p>②恒常的に学習者用端末を活用する授業の推進【ICT機器の活用】</p>	<p>①令和5年度児童・生徒の学力向上を図るための調査の質問項目「自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。」に対して21.3%の児童が否定群の回答をしている。</p> <p>②ノートへの書字活動に抵抗感を示す児童が、学習者用端末での書字活動に対しては、意欲的に取り組む傾向がある。また、用語や文章の意味が分からない時、直ちに質問する児童が一定数いるため、まず自分で考えて、分からなければ調べるという過程を定着させる必要がある。</p>	<p>①文章を書く際には、まずは一文の構成を意識させる（主語・述語の関係や接続語）。また、次の文章を書く際には、<u>前の文章とのつながりを意識させる</u>。完成した文章は、一度読み返す、もしくは他の児童に読んでもらう活動を通して、推敲の大切さを理解させ、適切な文章を書く力を身に付けさせる。「自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。」に対する否定群の回答10%以下を目指す。</p> <p>②不明な漢字や用語については、各々調べさせる。（自力解決を促す。）ノートと学習者用端末の使用頻度のバランスは教師側が意識しつつ、<u>児童の希望に合わせて選択させる</u>ことで、書く活動に対する意欲につなげていく。</p>
社会	<p>①問題解決的な単元構成を意識した授業展開の推進【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器を活用した資料提示や振り返り活動の推進【ICT機器の活用】</p>	<p>①ワークテストでは、知識・技能、思考・判断・表現ともに正答率7割に満たない児童は5%程度しかいないのに対し、「授業中、すすんで学習している」のアンケートに否定的な回答をしている児童が10%程度いる。</p> <p>②教科書を用いた資料提示だと、どこを見たらよいか分からない児童がいるが、学習者用端末を用いて資料配布することで意欲的に資料を見る児童が増える傾向にある。また、資料の気付きなどを共有することで自分の考えをもてたり、まとめの活動に意欲がもてたりする児童がいる。</p>	<p>①「つかむ」→「調べる」→「まとめる」→「つなぐ」という単元構成を意識させ、児童が主体的に学習課題をもって調べられるようにする。特に、導入では児童の興味関心を高められるような資料提示を工夫し、学習問題作りにつなげていく。「授業中、すすんで学習している」のアンケートに否定的な回答をする児童が5%以下になることを目指す。</p> <p>②資料提示や資料の読み取り場面では、積極的に学習者用端末を使用する。ノートと学習者用端末の使用タイミングを教師側が意識しつつ、振り返りやまとめの活動など、<u>個々の児童の希望に合わせて選択</u>させていく。</p>
算数	<p>①一人一人の基礎的・基本的な計算の仕方を見だし、発展的な考察力【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①学習の理解度は高い傾向にあるが、自分や友だちの考え方を図や表を使って分かりやすく説明できる児童が少ない。技能や知識・理解の差、学習内容の定着においても個人差が大きく、繰り返し反復練習する時間を確保する必要がある。</p> <p>②大型画面で問題を拡大して見せることで、教科書にある余計な情報を教師が意図的に省くことで集中して取り組む児童が過半数を占める。</p>	<p>①一人一人の状況を見取り、子どもの学習のつまずきポイントや習熟度に応じて適切な問題を出題する。それによって、効果的・効率的な学習を実現させるとともに個人差を小さくする。</p> <p>②自分や友だちの考えを、大型画面に映し出し、視覚的に理解しやすいようにする。発表や意見交換の機会を増やし、考えを深めたり広げたりする児童を育てる。</p>
理科	<p>①問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力の習得【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①実験には意欲的に取り組むが、結果から分かったことを自分の言葉で表現することが難しい児童が半数ほどいる。</p> <p>②児童は、技能的に学習支援アプリを使いこなすことができている。課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課題である。</p>	<p>①自分の考えをもち、表現する活動、それを共有する活動の充実をはかる。<u>学習支援アプリを活用して、友達に考えに触れたり、意見交換をしたりする活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。</u>また、一斉指導時に、自己の考えを具体的な言葉を使用し書いた児童を意図的に指名し、表現のよさを価値付ける。</p> <p>②学習支援アプリを更に活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していきそれによっていろいろな考え方を結び付けられるようにする。</p>

音楽	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 93%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②器楽演奏の実演が叶わない楽器の音色を、調べ聴いて身近に感じている様子がうかがえる。またプレゼンテーションアプリを使つての調べ学習を実施し、児童同士知らない情報を共有し、まとめあげることができている。</p>	<p>①さまざまな楽器演奏の活動に加え、表現する楽しさを学ぶために、<u>身体を使った活動</u>を取り入れる。また自己の表現方法を発表し合い、意見交換をしながら、全体のまとめにつなげる。</p> <p>②自己表現のツールとして、録音機能なども活用しながら、振り返りに結び付けられるようにする。世界の音楽など実際に行くことのできない場所や触れることのできないものの世界観を養う活動にもつなげたい。</p>
図画 工作	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 93%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考えられる。</p>	<p>①材料や用具、支持体、表し方などを複数提示するなどをして、児童が自分の思いに合わせて自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行い、今後のアンケートでは「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」の回答が95%以上になるようにしていく。</p> <p>②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習者用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていくようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
体育	<p>①運動量の確保された体育授業の改善実施【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①令和4年度の体力テストの結果では、どの運動の記録も平均水準が低かったため、全体的な運動能力の向上を図る必要がある。</p> <p>②課題とする運動に対して自分が「できているか、できていないか」の判断や、なぜ「できるのか、できないか」考えられる児童が半数未満である。自分の動きを客観視し、自己評価できる環境を整えることが必要である。</p>	<p>①主運動につながる運動を行う時に、<u>技能向上を図るドリルゲームや、ねらいとする動きにつながる準備運動</u>を行っていく。</p> <p>②自分が運動している様子を動画で撮影し、客観的に評価できるようにさせる。また、<u>動画として記録を残し、成長の様子を見取らせる</u>。</p>
外国語 活動	<p>①言語活動の充実（「読む」活動の充実）【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器利用を通して意見を示させ、共有させる工夫【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 90%であった。中学年での「聞く」「話す」という活動への取り組みに関しては多くの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。今後は「読む」活動を多く取り入れ、高学年外国語科へつなげていくことが課題となる。</p> <p>②基本的な話型の繰り返しを行うことで短い英文のやり取りを行える児童が増えていくが、新しい表現や難しい単語が出てくると習得に時間がかかる児童もわずかに見られ、即興で話す力・意見を示す力には個人差がある。</p>	<p>①4年生の学習範囲である小文字だけでなく、大文字についても復習を行い、高学年の書く活動に繋がれるようにする。書くことに抵抗のある児童も多いため、<u>点つなぎやクイズ形式の問題を月1～2回程度取り入れ、楽しく取り組めるようにする</u>。授業アンケートにおいて、「すすんで学習している」という質問項目に対し肯定的な児童が92%を上回ることを目指す。</p> <p>②毎時間、既習の短い英文を用いた small talk を行うことで、英語で質問したり答えたりすることに対する抵抗を少なくし、考えを伝える場を増やすと共に、授業内で ICT を効果的に活用し、自分の考えを示したり友達の見解を共有できる機会をつくったりして、児童同士がすすんで伝え合い、分からない時には教え合うことができる活動を行う。</p>
道徳	<p>①主体的に自己を見つめ、考えを深める授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた意見の共有と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①場面から登場人物の気持ちを考え、自分の考えを表現できる児童が多い一方で、友達の考えを聞いて自分を振り返り、道徳的価値をさらに深めていくことには苦手意識をもつ児童も多い。</p> <p>②学習者用端末を用いることで考えを表せる児童が増える傾向にはあるが、友達と考えを共有しただけで満足し考える時間が終わってしまう児童も多い。</p>	<p>①グループやペア等での対話的な学習を行い、友達と自分の考えの違いに気付いたり、話し合ったりする機会を増やす。</p> <p>②学習者用端末を用いて考えを共有するだけでなく、友達の考えに対する自分の考えなどを表現できるような ICT 機器の使い方を工夫していく。振り返り際には自己の生活を見つめ直し、考えたことを表現できるようにする。</p>

